



社会学類への招待

A Guide to College of Social Sciences, University of Tsukuba



本澤 巳代子
 (法学主専攻教授 社会学類長)



国際化と社会科学

経済のグローバル化に伴って人の移動が活発化する中、日本を生活の拠点として、家族を築き、子どもを育てる定住外国人が急速に増加してきています。また、少子高齢化の進展に伴う労働力不足を補うために、外国人労働者の受け入れ政策が論じられています。このように、日本社会の中での諸現象は、国際社会との関係を抜きに考えることができないものとなってきています。

社会・国際学群の中の社会学類

社会・国際学群では、社会学類の専門科目を履修しながら、国際総合学類の専門科目を履修することができます。つまり、社会学類では、日本社会や国際社会の中の現象や問題を考えたり分析したりするために必要な社会科学の基本的な知識を身につけながら、国際的な視野や感覚を身につけることもできるのです。

ようこそ社会学類へ	
筑波大学について	1
カリキュラム / 社会学類について	2
卒業生の声	3
各主専攻の紹介	
社会学主専攻	4
法学主専攻	6
政治学主専攻	8
経済学主専攻	10
在学生の声	12
「社学生」の生活	14
卒業生の進路 / 最近の主な就職先	16
入学案内 / 交通案内 / 筑波研究学園都市	18



学類長 本澤巳代子 先生とともに
 左より 土屋早巳/村上正子先生/高橋美穂
 本澤学類長/堀口法子/間中拓登
 撮影=小沼 孝

社会学類の4つの主専攻

通常の大学では別々の学部や学科に属する「社会学」「法学」「政治学」「経済学」が、4つの主専攻として1つの学類を構成しています。つまり、社会学類では、多種多様な科目を自由に選択して幅広く学ぶことができ、その中で自分の興味や関心を多様な角度から見ることができるわけです。その結果、入学したときに考えていた主専攻とは異なる分野に興味を持つようになることも珍しくありません。そのような学生達のニーズに応えるため、2年次の最後に1つの主専攻を選択することができるようになっています。

少人数教育

2年次までに社会科学の基本的な知識を幅広く身につけた学生達が、3年次から専門知識を集中的に深めることができるように、少人数教育によるきめ細かな教育が行なわれます。とくに、通常の大学では1つしか選択できない専門科目の演習を、社会学類

の学生は複数受講することができます。専門科目の演習では、与えられた課題や自分で選んだ課題について、積極的に情報や資料を収集し自らの考えを深めるとともに、先生や他の学生達との議論を通してより多くを学ぶことができます。

大学での勉強

専門科目の講義や演習を通して、自分の中で当たり前と思っていたことが、日本の他の地域や社会では当たり前でなかったり、国際社会では当たり前でなかったりすることを知って、皆さんは驚くかも知れません。それが学問的な刺激であり、また「なぜ？」という疑問が、学問の世界の面白さを教えてくれるかも知れません。大学での勉強は先生から答えを教えてもらうことではなく、「なぜ?」「どうして?」から始まるのです。大いに悩み・苦しみ、そして楽しんで下さい。

筑波大学は、百余年の伝統をもつ東京教育大学を引き継ぎ、1973年10月に「新構想」大学として、学際的な教育・研究を行うことと社会的にも国際的にも開かれていることを目的に開学し、2004年には、30周年を迎えました。長い歴史をもつと同時に、新たな伝統を創りつつある大学といえましょう。東京の近郊、関東平野の中ほど、筑波山の南に広がる筑波研究学園都市（行政上は、茨城県つくば市）の一角に、全国でも有数の広大なキャンパスを占める本学の、他大学と異なる特徴は、次の3点にあります。その1は、学部制に代えて、学生を教育するための組織である学群・学類を設けたこと。

その2は、前期2年の教養学部を廃止して、入学直後から大学としての専門教育を開始し、外国語や総合的な教養科目を効率的に配置したこと。

その3は、3学期制（1学期：4～6月、2学期：9～11月、3学期：12～2月）を採用し、年度の途中からでも制度の異なる外国の学生や研究者・教員の往来を容易にしたことです。

筑波大学社会学類は開設以来、人文学類、自然科学類とともに第一学群を構成してきましたが、社会情勢の変容や社会が求める大学像の変化などを踏まえ、平成19年度から社会・国際学群に属する2学類の

1つとなりました。社会学類は30年以上も積み重ねてきた成果を大事にしながら、新しい学群とともに構成する国際総合学類と協力しあって、社会科学分野における総合的・専門的な教育を一層充実させることを目指しています。たとえば社会学・法学・政治学・経済学の各主専攻では、必要に応じて国際総合学類との共通科目が設定されており、社会学類生は国際総合学類の科目を履修しながら、社会学類の卒業に必要な単位を取得することができます。社会学類生はまた、社会学類の科目だけでなく、さまざまな他学群・学類の授業を受けることもできます。

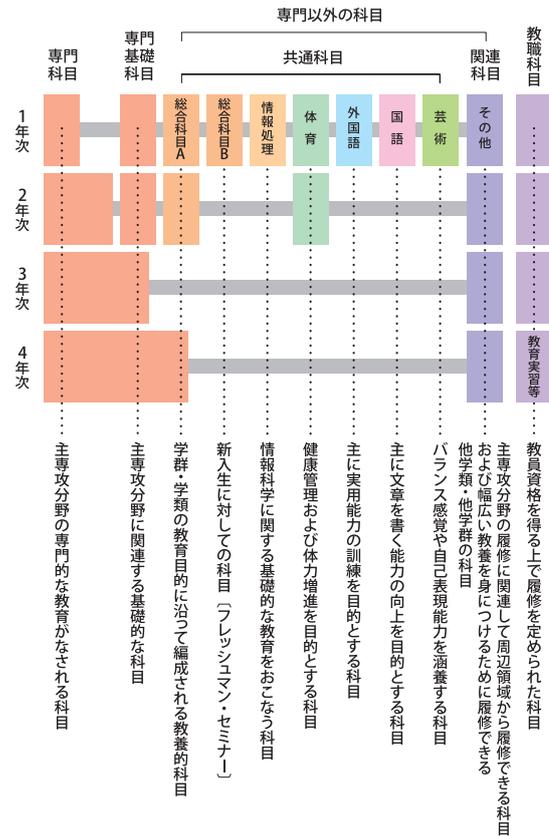
筑波大学の学群・学類

- 人文・文化学群 — 人文学類 比較文化学類 日本語・日本文化学類
- 社会・国際学群 — 社会学類 国際総合学類
- 人間学群 — 教育学類 心理学類 障害科学類
- 生命環境学群 — 生物学類 生物資源学類 地球学類
- 理工学群 — 数学類 物理学類 化学類
応用理工学類 工学システム学類
社会工学類
- 情報学群 — 情報科学類 情報メディア創成学類
知識情報・図書館学類
- 医学群 — 医学類 看護学類 医療科学類
- 体育専門学群
- 芸術専門学群

筑波大学の授業は、従来の大学に多く見られるような教養課程と専門課程という段階的な区分を設けず、一般教育的な科目と専門教育的な科目を有機的に総合的に提供されています。

したがって、学生は、1年次から専門分野の学問に触れることができ、また必要と興味とに応じて他の幅広い学問分野からも知識を吸収することができます。4年間という期間を計画的に、また自らの関心にしたがって組み立てていくことによって、高校時代には味わうことのできなかった学問の奥深さと面白さを、きっと知ることができるでしょう。

授業は、「専門科目」、「専門基礎科目」、「共通科目」、「関連科目」に大きく分けられます。このうち、「専門科目」では各主専攻の専門分野に関わる知識を、「専門基礎科目」では専門分野に関連する社会科学の基礎的な知識を、「共通科目」では外国語、情報処理、体育、国語、芸術などを、「関連科目」では専門以外の幅広い教養を学びます。



社会学類は、社会科学を総合的に教育することを目的とし、同時に専門の内容を深めるために3～4年次は社会学・法学・政治学・経済学の4主専攻に分かれます。他の大学に当てはめて言えば、社会学部（ないし文学部社会学科）、法学部（法律学科・政治学科）、経済学部それぞれ所属しながら、他学部（他主専攻）の勉強をすることも可能であり、かつ必要というわけです。

人間はともすると、「深ければ、狭く」「広ければ、浅く」なりがちですから、ひとつの主専攻を深く、かつ他の主専攻を広く勉強することは、決して容易なことではありません。しかし、現代の複雑な社会問題はそのような勉強を要求していますし、またそれに応える勉強は楽しいものです。

たとえば、主専攻分野の勉強を深めるために、2～4年次においては、少人数形式の入門演習や演習（ゼミナール）が設けられ、活発な討論と深い研究の「場」となっています。また、指定の「教職科目」を修得することにより、教員の資格が得られます。社会学類で取得できる主な免許状（科目）は中学校1種（社会）、高等学校1種（公民）です。

本学類には、学生が生きた学問をする場として、全国的にも珍しい裁判員制度に対応した模擬法廷が設けてられています。

社会学類と関係する大学院

社会学類、社会科学と関係する大学院が筑波大学には多数設けられており、大学院に進学する学生も増えています。筑波大学では、社会学類と最も密接な関わりを持つものとして人文社会科学研究科があり、現代文化専攻、国際公共政策専攻、法学専攻、経済学専攻の社会系4専攻などが設けられています。その他に教育研究科、生命環境科学研究科、芸術・世界遺産研究科、ビジネス科学研究科、システム情報工学研究科などがあります。法学分野では、東京秋葉原に、社会人を対象とした法科大学院（ロースクール）が設置されています。社会学類を卒業後、上記の大学院を経て、あるいは他大学の大学院（ロースクールを含む）を経て、大学やその他の研究機関、行政機関、法曹界、シンクタンク、マスメディアなどで専門知識を生かし研究を続けることが可能です。そうした多くの先輩が活躍しています。

内山純一 社会学主専攻卒/NBS長野放送報道局記者



怒っている人がいます。彼の怒りに同情し、怒っている理由をどれだけ知ることができるか、というのは、記者に求められる大事な能力だといえましょう。しかし同時に、「彼は怒るべくして怒っているのか?」「怒っている理由が他にもあるのではないのか?」「そもそも彼は、本当に怒っているのか?」など、あらゆる可能性を疑う能力がなければ、報道の視野はとても狭いものとなります。私が日々直面しているニュースの現場。そこに「切り口」をもたらしてくれるのは、社会学類で得た、何ものにも囚われずにモノを見る態度です。

とりわけ社会学とは、一切の先入観や常識を捨て去った頭で、人間のあらゆる営みの意味を考えていく学問です。「小泉劇場とはどのようなカラクリか」「幕張新都心とはどのように異なる都市か」「なぜゴスロリの衣装をまとうのか」「人はどのような場合に萌えるのか」など、私は友人たちと、実にさまざまな事象を分析してきました。心に「? (はてな)」ひとつあれば、どんな物事の正体も追究していきける、この魅力的な学問。マスコミの職場のみならず、もはや生活のあらゆる局面に、考え、知ることの喜びを与えてくれるものです。

では、あらゆる社会学の種となる、肝心の「? (はてな)」は、どのように得ることができるでしょう。自由に満ちた大学生活に臨む皆さんに伝えたいのは、「体験者たれ」ということです。4年間は長い。世界中を旅行するもよし、たくさんの恋愛経験を積むもよし、ひきこもり生活を満喫するもよし。くだらないと思うことでも構いません (そもそも「くだらない」なんて誰が決めた価値観でしょう)。自分にとって新しいことを、外から眺めるのではなく、積極的に体験してください。「今までと違う体験」の中で、「今までと違う点」を見つめてみれば、そこにきっと「? (はてな)」は隠れているのです。

社会学という刀は錆びることがなく、その切り口はいつも新鮮です。皆さんが将来の職場で、暮らして、問題に直面したとき、奇抜で的確な解決法を切り開く強力な武器にもなるでしょう。

増田静雄 政治学主専攻卒/NHK長崎放送局放送部勤務



「びっくりしたよ、面白かった」「そんなことがあったんだね、知らなかったよ」。そう思ってもらえる番組作りを目指し、今、ローカル局で奮闘中です。私の携わる仕事は番組制作で、ADのような業務も、企画からロケ、編集などすべて自分で担うこともあります。いつも、どうすれば多くの方に喜んで見てもらえる番組を作れるか、頭を悩ましています。何かヒントはないか、頭は常にフル回転で探します。そして、

その答えは、案外、日常生活の中に多く隠れています。以前制作した夜間の小児救急の番組。これは、夜の救急現場に子どもたちが押し寄せ、病院がパンク寸前であるというものでした。番組のきっかけは取材で行った地元の病院での光景で、夜なのに子どもで溢れていました。病院に子どもが沢山いるのは、一見普通ですが、私には大きな驚きでした。その背景に何があるのか。取材を進めるにつれ、共働きで夜間しか病院へ子どもを連れて行けない、核家族化で子育ての相談相手がいなく不安が募り、夜間の病院に駆け込んでしまう…など、いろんな事情が見えてきました。

私にとって大学生活は、そうした一つひとつの問題を見つけ出す発見力を培う貴重な時間でした。しかし、それだけではいけません。必要なのは背景に何があるかを探り出す分析力。この番組でも、夜の小児救急現場の光景だけを羅列しただけなら何のことだかわかりません。なぜそうだったのか。見つめていくと、医療制度や核家族、さらには政策決定での問題など多くの原因が見えてきます。その分析力こそ、政治学で学べることだと思います。そういう意味で人間関係が密で、さまざまな経験のチャンスが多いつくばは、最適な環境だったと思います。

大学生活はいろんな経験と勉強ができる場です。それを最大限に生かし、発見力と分析力をぜひ見つけてください。きっと人生の大きな糧となると思います。こんな偉そうなことを言っている私も、まだまだ修業の身ですが…

竹内信紀 法学主専攻卒/TMI総合法律事務所弁護士



それぞれの人には、それぞれの人生があります。そして、人は、それぞれの人生において、それぞれに主役を演じています。皆さんは、これから、その主役として、実に多種多様な道を歩んでいくことになるでしょう。

でも、その道も、単に闇雲に歩いていけばいいというわけではありません。皆さんが気持ちよくそれぞれの道を歩んでいけるように、道中には、様々なルールが作られています。

そのルールの一つに、法律というものがあります。法律は、日本で暮らしている人たちが、その人生を歩んでいく上で守るべきルールを定めたものです。私たちは、このルールにのっとって、それぞれの人生を歩んでいくこととなります。ところが、この法律というルール、実にたくさんのが作られていたり、時として複雑難解な表現がされていたりと、なかなかの厄介者です。ルールがあったとしても、それを知り、正しく理解できないのであれば、守りたくても、守りようがありません。法律学というものは、このような複雑難解なルールである法律というものの読み方や考え方を学ぶ学問です。これによって、法律が定めているルールの内容がより一層明確になり、皆さんが、気持ちよく、人生を歩んでいくことができるようになります。つまり、法律学というものは、皆さんが主役として大手を振って人生を歩んでいけるようにする、一種のサポート役といえると思います。

サポート役ですので、決して派手な仕事ではありません。私が今就いている「弁護士」という職業も、そうです。あくまでも、主役の人たちがそれぞれの道を歩きやすいようにする、その人たちが笑顔で歩けるようにする、そんな職業です。

でも、このような職業だからこそ、普通では出会えない多種多様な主役の人たちに巡り合うことができます。そして、その巡り合いが、私に刺激を与え、私の世界を広げてくれているのだと思います。弁護士という職業は、人の笑顔を守る喜びと同時に、多種多様な人に会えるという喜びがある職業なのだと思います。

みなさんも、法律学を学ぶことによって、みんなの笑顔の人生を守る第一歩を、そして、自分の世界を広げる第一歩を、踏み出してみませんか?

山田歌織 経済学主専攻卒/静岡県庁勤務



今はどうかわかりませんが、私が在学していた頃の経済学主専攻は、少人数でした。一学年の学生数よりも主専攻の教員数の方が多い学年もあったくらいです。良く言えば少数精鋭、悪く言えば人気がない。(あ、誤解しないでください。人が少ないからって経済学主専攻が面白くないとか、難しいとか、課題が厳しいとか、就職に不利とか、そんなことは全くないんです。ただ文系のくせに数学からは逃げられない点で、私は苦労したのですが…)

主専攻の学生同士は、どの授業でも顔を合わせるので、大抵仲良しになります。試験前に集まって勉強会を開いたり、下級生向けのゼミ説明会を企画したり、チーム戦の経済学検定を受けてみたり、履修できなかった必修科目を集中講義で開講してもらうよう先生に働きかけたりと、助け合う雰囲気があったように思います。ゲーム論っぽく言うと、完全競争ではなく、協力/非協力を選択する場面が無限回 (本当は有限だけど学生たちは無限と錯覚している) 繰返されるモデルでは、「互いに協力し合う」が均衡となる…うーん、ちょっと違ったかもしれません。

また、先生方はとても丁寧に指導、というか学生の相手をしてくださいます。中には毎週、研究室を開放して、自由参加の勉強会を開いてくださる面倒見の良い先生もいました。私たちはその先生の研究室に入り浸り、「ゲーム論研究会」と称して外国製のボードゲームで遊ぶのを何より楽しみにしていました。また、その勉強会が、私が講義に何とかついて行けるだけの数学の知識を補強してくれました。

今思うと、卒業した今、大学生活を「楽しかった」と思わせているものは、苦手分野や試験と一緒に乗り切った友人たちの存在です。筑波大の経済学主専攻には、そんな仲間関係が生まれるのに適した環境が、整っているのです。社会学系の学問を学びたいけれど具体的な分野はまだ決まっていないという方、筑波大の経済へぜひどうぞ。

社会学への招待

現代社会の様々な出来事は、思いがけないところで私たちの社会生活に変化をもたらしています。変わりゆく企業組織と家族関係の揺らぎ、新しい宗教現象と若者文化、外国人労働者の増加と地域社会、多様化するライフスタイルとメディア、例を挙げればきりがありません。経済、政治、文化、技術など一見ばらばらのように見える社会の各領域も、実は相互に深く関係し合っており、そうした複雑な仕組みに眼を向けることなしには、現代社会を理解することはできません。

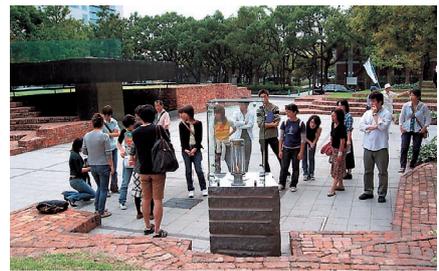
社会学は、こうした社会の各領域の成り立ちやそこに発生する問題を、特に私たちの日常生活のレベルから解明すると共に、さらに異なる領域の間に広がる見えない関係の連鎖を、人間や組織・集団の観点から自由に明らかにすることを、課題としています。本学の社会学主専攻では、主として社会問題論（国際移動・差別・犯罪・逸脱行動）、文化論（スポーツ・都市・メディア・知識・歴史）、医療・福祉論（老いと病い・社会保障・介護）を専門とするスタッフが、様々な学生の関心に対応した社会学の「フィールド」を整備しています。（下記の「卒論タイトル抜粋」を見てみて下さい）皆さんも、私たちが用意したこのフィールドで自由に駆けまわってみませんか？

教育方針と特色

社会学主専攻の科目は、社会学の基礎的な概念や理論を学ぶ社会理論、データを収集し分析するための方法を学ぶ社会調査・社会データ分析、そして家族や地域、産業、福祉、メディアなど個別分野についての社会学に大きく分けることができます。本主専攻では、単に社会理論を教育するだけでなく、現代社会のさまざまな問題に対して自ら頭と足で取り組む能力を養成するため、社会学演習（ゼミナール）と社会調査実習を開設しています。また国際的な視野から日本社会を学ぶことも重視しています。学生は、こうした学習の成果をまとめる機会として、卒業論文に取り組むことになっています。

将来の方向と進路

マスコミ・製造業・金融業・調査研究機関・サービス業などの民間企業や公務員など、きわめて多様な分野へと卒業生は就職しています。また、希望を生かして教員になるケースもあります。さらに、人文社会科学研究科（国際公共政策専攻社会学分野）をはじめとする大学院に進学することにより、より専門的な研究を続ける道も開かれています。



上— 専門科目講義
中— 神戸での社会調査実習
下— 秋葉原見学（社会学演習）

卒業論文タイトル抜粋（平成19年度） ● 変わりゆく「自分探し」と内へ向かう自己～「キャラ」を生きる若者の解読～ ● スポーツジャーナリズムの変容—サッカー・ワールドカップ記事分析を通して— ● 集会的記憶とリアリティの問題—原爆の記憶を題材として— ● 地域社会組織の相互扶助～ケニアの“Harambee”の変遷とコミュニティ・デベロップメントの関係を事例に～ ● <大学>の教育システムに関する社会学的考察—<キャリア>の形成と支援— ● 「自立」し「共生」する生き方～障害児教育の現状と意義～ ● 「まるい言葉」の可能性：差別を語る語彙を考える ● 垣根を越えた音楽～大衆消費文化としての音楽～ ● 「普通であること」の基準—映画と日常的な言葉を素材にして ● 文化装置としての「繁華街」：銀座の過去・現在・未来 ● 切り離された身体—ファッションの変遷に見られる自己と身体の関係性 ● 戦略的人間関係の社会学～20世紀FOXドラマ『プリズン・ブレイク』を題材にして ● 「オタク」へのまなざしと現代社会 ● 会話の社会学～対面会話と親密性



いがらしやすまさ

五十嵐泰正「都市社会学」「移民とエスニシティの社会学」「社会学演習Ⅳ」「社会調査実習」▶【都市社会学/国際人口移動論】▶「大学の中に引きこもっている社会学者に、社会の何がわかるんだ」ごもっとも。否定はしません。「社会は社会に出てから肌で覚えるから、社会学なん

ていけないよ！」それはどうかな？「社会」には、たくさん<社会>があります。油の匂いの漂う工場にも、深夜のファミレスにも。図書館でちょっと時代を遡れば想像もつかなく<社会>があるし、海を渡ればちっぽけな予測を軽く裏切る<社会>が待っています。そうそう、大学もひとつの<社会>です。「社会人」になってから、安易に「社会」がわかった気になって失敗しないために、さまざまな<社会>にまみれながら、いくつもの<社会>の成り立ちを自分の頭で考えておく。それが社会学主専攻で過ごす大学生活です。



かつやまやすお

葛山泰央「知識社会学」「社会学演習」▶【言説分析/知識社会学/フランス政治哲学】▶社会学という学問的な営みを特徴付けているのは、さまざまな社会(的事象)をその内部から観察することの二重性、つまりは「社会への視線」と「社会からの視線」とが互いに織り成す、ある種の

往復運動にほかなりません。その意味で、社会学とは、近代社会の自己観察の営みであるともいえます。私たちの生きる社会への、私たちの生きる社会から向けられる、こうした視線のダイナミズムを、あなたもぜひ一度体験してみませんか。



どいたかよし

土井隆義「現代社会論」「犯罪社会学」「社会学演習Ⅶ」▶【犯罪社会学/法社会学/逸脱行動論/社会問題論】▶社会生活における様々な病理現象を素材に、社会的なものの方について考える授業を行っています。社会学というパースペクティブから様々な病理現象をながめると、社会と私たちとの関りについて、いままで気づかなかった意外な側面が見えてきます。私たちの生きている世界は、けっして一枚の織物ではありません。様々に織り重なった意味の層を探検してみると、重大な社会問題と思われるものが、じつは別の側面で現代社会のシステムを支えていたり、あるいは逆に、望ましいと思われていた理念が、その裏側では病理現象を招いていたということが分かってきます。社会病理に対する道徳的な判断も一つの偏見でしかないかもしれないのです。授業をとおして、社会病理をめぐる従来の常識を突き崩す面白さを味わうとともに、社会の中で私たちが生きていく意味についてもぜひ考えて下さい。



ファン スンヒョ

黄順姬「社会学演習」「調査実習」「スポーツ文化論」「教育社会学」「調査実習」▶【教育社会学/文化社会学/スポーツ社会学】▶社会学の演習では社会学理論と、フィールドでの調査方法を学び、関心のあるテーマで論文を作成します。たとえば「記憶の社会学」では、記憶の空間、時間、身体論を検討し、同窓会、スポーツ、整形・エステなどの分野からテーマを設定し、ゼミ論を完成します。調査実習では、直接フィールドに出て、たとえば、中等学校の学校現場、同窓会、または新宿大久保コアタウンで調査し、報告書を完成します。社会学研究の面白さを堪能してください。



おくやまとしお

奥山敏雄「組織社会学」「社会学基礎論」「社会学演習」▶【組織社会学/社会システム論/医療社会学】▶教科書に書いてあることがすべて正しいと思わない態度を身につけることが大切です。社会についてはいろいろな見方や考え方が成り立ちます。様々な社会認識に対して、自分

なりの距離を取れるようなタフさが必要なのであって、唯一の正しい見方を教えてくれと求めることは、安住できる宗教を求めるようなものです。大学に入ったら受験の思考回路を早く捨ててください。



たらかわのりこ

樽川典子「家族社会学」「ジェンダー社会学」▶【家族社会学/福祉社会学】▶知識を習得する勉強から、学を問う学問へ。筑波大学社会学類で学ぶ楽しさの一つは、ここにあります。メディアがとりあげる出来事だけが社会でしょうか？人びとの生活のさまざまな事象をつうじて見えて

くるものにも注目していきましょう。社会とは大学とは？大学教授は何を考えているのか？わかりやすく知りたい方は、下記の文献を通読してみてください。

▶山下和美「天才柳沢教授の生活」全21巻、小学館



のがみ げん

野上元「歴史社会学」「社会学演習」▶【歴史社会学/メディア論/戦後思想史】▶なぜ社会学をやろうと高校生の頃に考えたのかを思い出してみると、人々の営みを高見から説明することに魅力を感じていたのかもしれない。意外な視点で世の中や人間関係をばっさり斬り、物

事の捉え方を变化させて、何気なく見えていた風景を変える…。社会学を学べば、まるで自分が世事から超越し、何か偉い人間になれるのではないかと思っただけである。ただ、今ならそうは考えない。それは無力な高校生が頭のなかだけで一発逆転を狙っていたようなものだったと思うからだ。社会は高見から説明できるようなものではないし、「本質をとらえる」なんて、そもそもそれについて自分が詳しくなかったというだけであって、「ばっさり斬る」なんて、いまだにできたためしがないのだ。



よしひろあき

好井裕明「差別の社会学」「エスノメソドロジー」▶【差別問題/エスノメソドロジー/映画社会学】▶社会学には、ふたつのセンスが必要です。一つは「あたりまえ」を常に疑うセンスです。普段なにげなく暮らしている日常。私たちはそこで、どのように「普通に」「普通であること」に安

住しているのでしょうか。今一つは、常に現実に向かい現実を具体的に調べようとするセンスです。「あたりまえ」を疑い、そこにははまれたさまざまな問題や力の行使など詳細に調べ、読み解き、批判していくために、「調べる」ということが基本なのです。

法学への招待

現代社会の複雑多岐な社会生活は、様々な法律や制度によって運営されており、人としてそこに生きる以上、好むと好まざるを問わず法にかかわらざるを得ません。新聞を開いてみれば、個人のプライバシーとマスコミの取材の自由の問題や、少年犯罪や児童虐待の増加等、「法的」な問題の目白おしです。また、国際化の進展にともなって、外国企業の合併や吸収、国際貢献など、外国とのあいだで法的な解決を迫られる場面も増えています。法律というと、一見、日進月歩の科学技術とは異なり、固い、旧態依然というイメージがあるかも知れませんが、決してそのようなことはありません。証券取引の規制、ソフトウェアやバイオテクノロジーの保護や規制、ネット社会特有の諸問題への対応等、新たな法現象が生じてきたこともあって、情報化・国際化の今日、法学には、時代の変化に柔軟に対応することが求められているのです。

教育方針と特色

法学主専攻では、ひろく法にかかわる基礎的な理論・システムの把握を教育の中心において、そうした教育を通じて、幅広い法的なものの見方、考え方を養うことを主眼としています。基本的な実定法を通じて、現実の法体系を学ぶことで、長い歴史のなかで培われた人間の叡知の豊かさを理解し、その社会的役割を適正に評価することが、なによりもまず求められます。

法学主専攻のカリキュラムは、様々な実定法から、政治学・経済学・社会学・人文関係系統にいたるまで、幅広いものを含んでいますが、そうした科目の学習を通じて得られる、社会生活全体を広い視野で考察する適切妥当な観点と判断力が、まさに法的なものの見方、考え方の現れなのです。様々な法分野の講義から、少人数形式のゼミナールにいたるまで、法的議論の「場」は多々用意されています。

将来の方向と進路

卒業生の就職先は企業・団体など多岐にわたり、国内外で広く活躍しています（うち約2割が公務員）。また、卒業生の約2割が法科大学院へ進学し法曹を目指しています。



上—専門科目の講義風景
中—演習風景
下—模擬法廷の風景

演習テーマ抜粋（平成20年度） ●憲法判例の検討 ●憲法の基本問題 ●会社法、保険法の重要判例の検討 ●不法行為法に関する裁判例の研究 ●親族法・社会福祉法等の基本文献の検討 ●刑法の重要問題の検討 ●行政法の諸問題の検討 ●刑事訴訟法の重要論点の検討 ●紛争解決の法的技術の検討 ●民事訴訟法の解釈問題の検討 ●信託法に関する問題の検討 ●裁判（その他の紛争解決制度）の役割と限界 ●子どもをめぐる問題の総合的検討



おか うえ まさみ
岡上雅美 「刑法Ⅰ」「刑法Ⅱ」「刑法Ⅲ」▶【刑事責任論/刑罰論/量刑/ドイツ刑法】▶大学とは、知識を増やすだけが目標ではありません。大学での4年間(以上?)をどのように過ごすかで、良くも悪くもその人の一生が決まります。「本当に好きなこと」を大学生生活の間で見つけてください。それぞれの「本当に好きなこと」を達成するためにも努力と正しい戦略が必要なはず。できるだけ広い視野をもち、いろいろな物の見方ができるということが大切でしょう。いろいろなことを体験し、いろいろな本を読み、そして、是非是非、学生生活の間に、今まで行ったことのない外国を訪れてみてください。



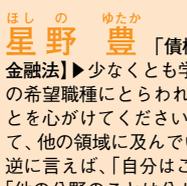
こく ぶん のり こ
國分典子 「法学概論」「憲法Ⅲ」▶【韓国憲法/憲法思想史】▶みなさんの中には、将来について既に明確な目標を持っている人も、まだ何をしたいかわからない人もいます。でもそれぞれ、あせらないで4年間いろいろなことを考えてください。そして時間をかけて、自分が一番大事にしたいものを発見していきましょう。それが必ずしも勉強や就職に直結するとは限りませんが、人生を豊かにし、苦しいときにも支える力になってくれると思います。



つち や ひで お
土屋英雄 「憲法Ⅰ」「憲法Ⅱ」▶【憲法学/比較人権法学/中国法学】▶元気に(身体面)、真剣に(勉強面)、楽しく(精神面)、学生生活を送って下さい。



ね も と のぶ よし
根本信義 「裁判実務Ⅰ」「裁判実務Ⅱ」「裁判実務演習」▶【裁判実務/法教育】▶4年間というのはあっという間に過ぎてしまいます。知的好奇心を大いに発揮して、いろいろな本を読んだり、さまざまなことにトライしてみてください。その中でさらに夢中になれる何かが見つかれば、あなたの人生にとってきっと大きな財産になるでしょう。推薦したい本は山ほどありますが、まずは長谷部恭男「憲法とは何か」(岩波新書)を読むことを薦めます。憲法の意義を再確認できると同時に、さまざまな基本的文献に興味深く紹介されており、知的好奇心が刺激されること請け合いです。



ほし の ゆたか
星野豊 「債権総論A・B」「信託法」▶【民法/信託法/金融法】▶少なくとも学群生である間は、主専攻とする分野や将来の希望職種にとらわれることなく、幅広く学び、自由に考えることを心がけてください。興味を持つ対象が社会科学の範囲を超えて、他の領域に及んでいくことも、全く差し支えないと思います。逆に言えば、「自分はこの分野を専門としている」ということが、「他の分野のことは分からないし関心もない」ということにならないように、十分注意してください。



もとざわ みよこ
本澤巳代子 「親族」「相続」▶【家族法/社会保障法/ドイツ法】▶離婚や児童虐待など家族の抱える問題は、家族の中だけでも、法律知識だけでも解決できません。社会問題や社会政策としての側面、心理的側面なども一緒に考えて、初めて解決の糸口を見つけることができるものです。筑波大学社会学類には、このような総合的視野からの勉学を可能とする科目が揃っています。社会学類を志望する学生諸君には、こうした学類の特徴と利点を理解した上で、大学に来てもらいたいと思います。



お が わ よし き
小川佳樹 「刑事訴訟法」「刑事政策」▶【刑事訴訟法/捜査法/刑事証拠法】▶大学で法学を学ぶことの意味は、民法、刑法といった個々の法分野に関する知識の獲得に尽きるものではありません。単なる暗記で通ることなく、法について学ぶことを通して、問題を発見・分析し、解決策を考え、他者を説得する、といった能力—これは、弁護士などの法律実務家以外の途に進む人にとっても「武器」となるものです—を身に付けることが重要です。がんばってください。



こ に し とも よ
小西知世 「民法総則」「契約総論」▶【医療事故・リスクマネジメント/インフォームドコンセント/末期医療/看護制度/在宅ケア】▶あなたのお名前は何か? おいくつですか? どんな人ですか?好きなコトはなんですか? キライなコトはなんですか? 友達はいますか?好きな人はいますか? キライな人はいますか? あなたが大切にしているモノは何ですか? 将来は何になりたいですか? 夢ありますか?…小さい頃に、よく尋ねられたようなコト。今、あなたはこの問いかけに答えることができますか? もし答えられなくなっていたら、わからなくなっていたのなら、筑波大学で—たった4年間ですが—、一緒に探してみませんか。



で ぐ ち まさ よし
出口正義 「商法Ⅱ(会社法)」「保険法」▶【会社法/保険契約法/保険業法】▶大学ではこれまでとは違い自由な生活ができます。思いっきり遊び、思いっきり勉強してください。どちらかに偏っては良くありません。なにごとにもバランスが大事です。自分の好きなこと、興味のあることを思いっきりやってみることで。そこからきっと何かが生まれ君の心を動かし、君の感性と思考力を豊かにしてくれるでしょう。推薦する書籍は特にありませんが、歴史小説、スパイ小説、冒険小説、文学書、専門書でも何でもよいですから本を読むことがとくに社会学類の学生には大事です。映画や落語や演劇や音楽、スポーツなど何でもよいですから娯楽を楽しむことです。人間性を豊かにしてくれるでしょう。私のメッセージは「自由な心で思いっきり」です。



はぎ わら かつ や
萩原克也 「商法Ⅰ(総則・商行為)」「商法Ⅲ(有価証券)」▶【運送法(海上・航空)/有価証券法】▶商法の分野は複雑に見える部分もありますが、基本は「合理性」を追求した「実用的な制度と解釈」です。マニュアル思考とは違う法的なものの見方・考え方、論理性を習得し、社会にでたら起業家になったり、専門知識を生かして主体的に生きていこうと考えている方を歓迎します。まずは堅苦しく考えずに飛び込んでみてください。



むら かみ まさ こ
村上正子 「民事訴訟法」「民事訴訟法演習Ⅱ」▶【国際民事訴訟法/外国判決の承認・執行/弁護士倫理/証拠法】▶大学での4年間は、今までの受身の学習を通して得た知識を活かして、自分から積極的にとどんでん学ぶことにより、将来の人生における選択肢を増やす大事な時間です。将来の夢が決まっている人もそうでない人も、できるだけ多くのことに挑戦して下さい。人生において無駄なこと、無駄な知識など一つもない、マイナスをプラスに変えようという前向きな姿勢を持ち、卒業するときに、「いや〜、4年間楽しかった!」といえる、そんな大学生活を送って欲しいと思います。私から皆さんへのメッセージは、「意志あるところに道は開ける」です。



よこ た こう へい
横田光平 「行政法Ⅰ」「行政法Ⅱ」▶【行政法/子ども法】▶「わからない」ということはとても大切なことです。自分がいかに何もわかっていないか、世の中がいかにわからないことだらけなのかということに気づくことができるように、実りある大学生活を送ってください。

政治学への招待

今日、私たちは政治の圧倒的な影響のもとに生活しています。実際、国際間でおこった一つの地域的なテロが全世界の市民をその渦中に巻き込み、政府が決定した一つの経済政策の失敗が、国民一人ひとりの生活のすみずみにまで浸透してきています。私たちが政治に関心をもたなくとも、政治が私たちをとらえてはなさないのです。

政治学はこのような政治の世界を理論的、科学的、歴史的に分析し、理解し、同時に政治のあるべき姿を科学的、思想的に考察しようとする学問です。人間・集団・社会・国家に発生するさまざまな利害の対立と解決の様相を研究するこの学問にとって、「人間」に関する多様な認識と深い洞察力は不可欠であり、そのためには、幅広い教養と専門的な知識を吸収しようとする旺盛な知的好奇心が求められます。

教育方針と特色

政治学主専攻では、政治に関する基本的な概念、理論、歴史などを学ぶ基礎的な講義、入門演習を通して、政治学的なものを見方を身につけます。そして、専門科目、専門演習に入って政治理論、政治思想、政治外交史、国際政治等、それぞれ自分の関心領域を決め、研究を深めます。

とくに演習は、少人数、自主的運営を原則とし、テキストの輪読や興味ある研究テーマについての報告、討議を行い、その成果をゼミ論文としてまとめることになっています。

演習はまた、学生の企画、討論への参加を通して自立心を育てる場であるとともに、ゼミ活動を通じて、学生同士はもとより、教員との相互親睦を深め、社会人としてのあり方を具体的に実践する機会を提供してくれるでしょう。

将来の方向と進路

就職先は、マスコミ、金融、製造、不動産、サービス業、さらに国家、地方の公務員等、多岐にわたっています。最近では、企業の総合研究所や情報関連企業に就職する卒業生も出てきています。また、大学での研究を深めるために大学院に進学する者もいます。



専門科目の演習および講義風景

卒業論文タイトル抜粋（平成19年度） ● 国家公務員制度改革の考察～官のシステムの行方～ ● 介護保険のジェンダー変革に関する政治過程—歴史的制度論の視点から— ● 市町村合併—市町村のそれぞれの選択と決断 ● 日本における地域の衰退とその再生の可能性—ダムに関わる自治体の事例研究を通して— ● 地方分権化の諸問題～教育行政の観点から三位一体改革を振り返る～ ● グローバル化に伴う雇用政策研究～「オランダモデル」から考える日本の雇用再生～ ● 多文化主義をめぐるテイラーとキムリッカの対話—「ケベック問題」を中心に— ● 現代フランスの移民政策—マグレブ系移民の現状— ● チャーチル外交 ● 「海軍無条約時代」と真珠湾への道 1934～41年の帝国海軍に関する一考察 ● 東京都の教育政策における中高一貫教育政策の政策過程分析～その意義と展望における一考察～ ● 地方自治体のアジェンダ設定機能—練馬区の事例を通じて— ● 自由について ● 先進自治体の景観政策



いとう しゅういちろう
伊藤修一郎 「行政学」「都市政治学」「地方自治論」▶【地方自治／パブリック・マネジメント／行政組織／まちづくり】▶

学生時代には気づきにくいのですが、大学の授業って、先人の知恵が詰まった宝の山なのです。社会に出てそのことに気づいた私からアドバイスさせてもらえば、日々の生活の中で感じる「なぜ?」「おかしい!」と思ったことを大切に、その疑問や問題意識を授業に持ち込んでみてください。きっと政治や行政の授業が、無味乾燥な呪文から、人と組織とが織りなすドラマに変わり、生活に密着したガイドとなり、改革の道筋を示す地図ともなるでしょう。



すずき そう
鈴木創 「比較政治学Ⅰ」「比較政治学Ⅱ」▶【現代アメリカ政治／議会研究】▶新聞やテレビで政治が語られない日はありません。政治についての知識やイメージを得ることはそう難しいことではないでしょう。でも、常識とされていることが本当に正しいのか、常識とされる現象がなぜ起きているのか、ちょっと立ち止まって自分の頭で考えてみてください。有名な評論家がテレビで話していることも、大学の先生が本で書いていることも、批判的に考える姿勢を身につけましょう。

常識とされる現象がなぜ起きているのか、ちょっと立ち止まって自分の頭で考えてみてください。有名な評論家がテレビで話していることも、大学の先生が本で書いていることも、批判的に考える姿勢を身につけましょう。



つじ なか ゆたか
辻中豊 「政治学」「市民社会政治論(大学院現代文化・公共政策専攻)」▶【各国の市民社会と政治／NGO・NPO・利益集団／政治過程の比較分析】▶政治は面白い…と15歳で感じてから、30年余、私は今も楽しく研究しています。中味はいずれ講義で聞いてください。政治は運命への自己決定という側面もあり、どうしてもなく大きな歴史の流れという側面もあるので、多様な接近が必要です。歴史の奔流に流されず、メディアやエリートに操られず、自分が主人公になること、そのために政治学がありますが、さてその肝心の自分とは何でしょう。それを知ることから研究が始まります。そのためには自分「研究ノート」をつけましょう。

政治は面白い…と15歳で感じてから、30年余、私は今も楽しく研究しています。中味はいずれ講義で聞いてください。政治は運命への自己決定という側面もあり、どうしてもなく大きな歴史の流れという側面もあるので、多様な接近が必要です。歴史の奔流に流されず、メディアやエリートに操られず、自分が主人公になること、そのために政治学がありますが、さてその肝心の自分とは何でしょう。それを知ることから研究が始まります。そのためには自分「研究ノート」をつけましょう。



ふる た ひろし
古田博司 「東洋政治思想」「情報戦略と政治」▶【東アジア政治／北朝鮮政治／宣伝煽動工作と思想教化／特定アジアの反日と日本の安全保障】▶今はポストモダンの時代ですが、学生諸君がまだ物心ついていない頃、日本にもモダンな時代というものがありました。世界は一直線に進歩していると思い込み、平等や自由が当たり前の理想のように唱えられ、進歩的文化人とか、良心的知識人といわれる人々が、その伝道者のように論壇を占拠していました。しかし、そのような安易な時代は終わってしまいました。いまは生きる意欲をみなが自分で高めなければならない時代です。外を見れば、近代化に失敗した国は民生を犠牲にして核とミサイル開発に走り、資本主義を始めたばかりの独裁国は偏狭なナショナリズムに駆られ、公害や毒食を世界にばら撒いています。内を振り返れば、身の回りのリスクは増大しているし、淘汰・自滅・墮落は人々を飲み込もうと待ち構えています。今大事なことは、外に対する防御を固くするとともに、内における生きる意欲を絶えず高めていくことだと思っています。私の講義では、特定アジア(中国・韓国・北朝鮮)に対する我が国の安全保障を考えます。私のゼミでは、文章修業を中心に、マスコミ・情報関係への諸君の就職活動を積極的に支援します。昨年度は、日経・NHK・産経などに人材を送り出しました。強きをくじき、弱きを助け、社会的承認を獲得して生きる意欲を高めていく、そういう現実的、実務的、かつ庶民的な教育方針を採っています。おすすめの本：古田博司『東アジアの思想風景』(岩波書店、1999年サントリー学芸賞受賞作)、『東アジア・イデオロギーを超えて』(新書館、2004年読売・吉野作造賞受賞作)、現状分析は適宜「産経新聞」正論欄に執筆しています。2006年には、産経正論新風賞を受賞しました。

今はポストモダンの時代ですが、学生諸君がまだ物心ついていない頃、日本にもモダンな時代というものがありました。世界は一直線に進歩していると思い込み、平等や自由が当たり前の理想のように唱えられ、進歩的文化人とか、良心的知識人といわれる人々が、その伝道者のように論壇を占拠していました。しかし、そのような安易な時代は終わってしまいました。いまは生きる意欲をみなが自分で高めなければならない時代です。外を見れば、近代化に失敗した国は民生を犠牲にして核とミサイル開発に走り、資本主義を始めたばかりの独裁国は偏狭なナショナリズムに駆られ、公害や毒食を世界にばら撒いています。内を振り返れば、身の回りのリスクは増大しているし、淘汰・自滅・墮落は人々を飲み込もうと待ち構えています。今大事なことは、外に対する防御を固くするとともに、内における生きる意欲を絶えず高めていくことだと思っています。私の講義では、特定アジア(中国・韓国・北朝鮮)に対する我が国の安全保障を考えます。私のゼミでは、文章修業を中心に、マスコミ・情報関係への諸君の就職活動を積極的に支援します。昨年度は、日経・NHK・産経などに人材を送り出しました。強きをくじき、弱きを助け、社会的承認を獲得して生きる意欲を高めていく、そういう現実的、実務的、かつ庶民的な教育方針を採っています。おすすめの本：古田博司『東アジアの思想風景』(岩波書店、1999年サントリー学芸賞受賞作)、『東アジア・イデオロギーを超えて』(新書館、2004年読売・吉野作造賞受賞作)、現状分析は適宜「産経新聞」正論欄に執筆しています。2006年には、産経正論新風賞を受賞しました。



こん どう やすし
近藤康史 「政治思想」「政策過程論」「現代政治分析」▶【政治理論・思想／福祉国家論／イギリスを中心とした現代ヨーロッパ政治】▶政治学を志す理由の一つに「社会を良くしたい」というものがあるでしょう。しかし、自分にとって「良い社会」が他人にとっても「良い」とは限りません。社会には様々な考え・価値を持つ人々が存在するからです。その多様性を踏まえながら、いかに平和的な共存の方法を見出すか、これこそが政治学の根本的な問いです。その問いへ向けて、まずはできるだけ多様な人々との付き合いやコミュニケーションを通じて様々な考えや価値に触れてみましょう。それが政治学への第一歩です。

政治学を志す理由の一つに「社会を良くしたい」というものがあるでしょう。しかし、自分にとって「良い社会」が他人にとっても「良い」とは限りません。社会には様々な考え・価値を持つ人々が存在するからです。その多様性を踏まえながら、いかに平和的な共存の方法を見出すか、これこそが政治学の根本的な問いです。その問いへ向けて、まずはできるだけ多様な人々との付き合いやコミュニケーションを通じて様々な考えや価値に触れてみましょう。それが政治学への第一歩です。



たけ なか よしひこ
竹中佳彦 「日本政治論」「日本政治思想」「現代政治外交Ⅰ・Ⅱ」▶政治学・日本政治論(イデオロギーと政治意識、投票行動などの計量分析／戦後の政治外交史・思想史)▶政治とは、あらゆる人間諸集団に見られる、人間の相互作用によって生じる現象です。それを対象とする政治学は、古代ギリシャにまでさかのぼれる学問で、経済学や心理学、社会学、歴史学などの隣接諸科学の影響を受けながら発展し、時代に応じた役割を果たしてきました。複雑な現代の諸問題を解決するために、学問はますます学際化し、総合的な視点で物事を捉えて政策的に思考する人材が求められています。社会科学を広く学びながら政治学を学べる社会学類のメリットを生かし、そのような能力を培って下さい。

政治とは、あらゆる人間諸集団に見られる、人間の相互作用によって生じる現象です。それを対象とする政治学は、古代ギリシャにまでさかのぼれる学問で、経済学や心理学、社会学、歴史学などの隣接諸科学の影響を受けながら発展し、時代に応じた役割を果たしてきました。複雑な現代の諸問題を解決するために、学問はますます学際化し、総合的な視点で物事を捉えて政策的に思考する人材が求められています。社会科学を広く学びながら政治学を学べる社会学類のメリットを生かし、そのような能力を培って下さい。



チェ ジョン
崔宰榮 「計量分析入門」▶【計量政治学】▶社会をとりまく色々な問題に対し、自分なりの意見を持って積極的に取り組みながら、自分の価値や潜在的な能力を導き出し、社会の一員として何ができるのか、何をすべきなのか、という問いに答えを見つけていただければと思います。

社会をとりまく色々な問題に対し、自分なりの意見を持って積極的に取り組みながら、自分の価値や潜在的な能力を導き出し、社会の一員として何ができるのか、何をすべきなのか、という問いに答えを見つけていただければと思います。



まつ おか ひろし
松岡完 「政治外交史」「欧米政治外交史」▶【アメリカ政治外交史／冷戦史／ヴェトナム戦争史】▶受験勉強中のみなさんは、世界史や日本史は「暗記科目」で、つまらないと思っているのでは?でも本当は、歴史とは推理小説のようなもの。世の中に発生した無数の出来事の中から、それぞれの目で「事実」を選び出し、独自の「解釈」を加えることで、何が起きたのか、なぜそうなったのかという「物語」をつくりあげていく作業です。20世紀、とくにその後半の政治外交史を舞台に、その面白さを一緒に味わっていきませんか。

歴史とは推理小説のようなもの。世の中に発生した無数の出来事の中から、それぞれの目で「事実」を選び出し、独自の「解釈」を加えることで、何が起きたのか、なぜそうなったのかという「物語」をつくりあげていく作業です。20世紀、とくにその後半の政治外交史を舞台に、その面白さを一緒に味わっていきませんか。



みなみやま あつし
南山淳 「国際政治学」「国際紛争論Ⅰ,Ⅱ」▶【国際安全保障／国際政治理論／グローバル化と地域紛争】▶かつて冷戦といわれた時代、「テロリスト」オサマ・ビン・ラディンと「独裁者」サダム・フセインの最大の擁護者はアメリカでした。アメリカ政府は、前者をアフガニスタンで反ソ闘争を闘う「勇敢な戦士」として、後者をアメリカと敵対するイランと戦う「英雄」として、賞讃し、彼らに対する軍事的・経済的援助を惜しみませんでした。しかし、冷戦が終わって、9.11テロをきっかけに世界が混沌とするなかで、アメリカは、かつての友人たちを国際社会の「敵」として断罪するようになりました。フセインにいたっては、アメリカの実質的占領下にあるイラクにおいて、その処刑が断行されたことは御存じのとおりです。もちろん無差別テロや人権侵害を許されないということはいまでもありません。でもいったいどこをどうしたら、アフガニスタンやイラクでの戦争が「正義の戦争」であるという理屈ができあがるのでしょうか?現代国際政治の「謎」を一緒に考えていきませんか。

かつて冷戦といわれた時代、「テロリスト」オサマ・ビン・ラディンと「独裁者」サダム・フセインの最大の擁護者はアメリカでした。アメリカ政府は、前者をアフガニスタンで反ソ闘争を闘う「勇敢な戦士」として、後者をアメリカと敵対するイランと戦う「英雄」として、賞讃し、彼らに対する軍事的・経済的援助を惜しみませんでした。しかし、冷戦が終わって、9.11テロをきっかけに世界が混沌とするなかで、アメリカは、かつての友人たちを国際社会の「敵」として断罪するようになりました。フセインにいたっては、アメリカの実質的占領下にあるイラクにおいて、その処刑が断行されたことは御存じのとおりです。もちろん無差別テロや人権侵害を許されないということはいまでもありません。でもいったいどこをどうしたら、アフガニスタンやイラクでの戦争が「正義の戦争」であるという理屈ができあがるのでしょうか?現代国際政治の「謎」を一緒に考えていきませんか。

経済学への招待

経済学は、人文社会科学で唯一ノーベル賞の対象となっている学問分野であり、システマティックな方法と高度な論理性を備えている点に特徴があります。経済学の方法は、狭い意味の経済現象の分析用具として大きな成果をあげてきただけでなく、政治、法律、労使関係、家族、環境問題、都市、教育、国際関係といった他の分野にも幅広く適応されて、深い洞察をもたらしてきました。その結果、今日では、それらの分野も経済学の重要な領域となっています。

経済学は、文科と理科の二つの側面をもった学問です。自然科学と同様に、経済学では明確な仮定の下での論理性に厳格です。また経済学が文种的であるのは、単に対象が人間活動であるからではなく、他の人文社会科学と同様に歴史や思想を重視するからです。

経済学は、しばしば誤解されるような、金儲けや社会の効率化の手段ではありません。それは、社会問題を明析に、客観的に、そして検証可能な形で思考するための手段なのです。

教育方針と特色

経済学専攻では、論理演算に片寄った経済学教育を避け、理論と歴史・実証分析の調和された教育内容を設定することで、広い社会的関心をもちながら、現代の問題をシステマティックにとらえる能力の養成を目的としています。

また、他大学の経済学部と比べて教員一人当たりの学生数が少ないという特色を生かして演習（ゼミ活動）を重視しています。

そこでは、活発な議論を通じて経済学をより深く学べるよう留意するとともに、工場見学を実施したり、日本銀行証券取引所見学を実施したりなど生きた経済を学ぶための実習的な取り組みも積極的に行っています。

さらに必修ではありませんが、学生生活の総決算として卒業論文をまとめることを推奨しています。

将来の方向と進路

就職先は、銀行など金融業から、製造業、マスコミ（新聞記者など）、教職、公務員などさまざまな分野に及んでいます。また、研究者をめざして大学院に進学する人もいます。



上—工場見学（クリーンルームにて）

中—演習風景

下—専門科目の講義風景

卒業論文タイトル抜粋（平成16～19年度） ● バブル崩壊前後の日本の金融政策 ● BRIGs台頭時代の国際経済
 ● 企業年金の分析 ● 規制緩和と郵政民営化 ● 非協力ゲーム理論における互恵性の理論 ● 日本型クラスターの考察
 ● グラミン銀行の人間開発アプローチ ● 「合理的選択」とその周辺についての考察



小谷 清 おたに きよし
 「初級マクロ経済学」「中級マクロ経済学」▶【マクロ経済学/日本経済】▶社会科学の中で唯一サイエンスといえる経済学は、他の社会科学分野のちょっと面白いだけのお話とは違う、持ち重りのする組織的な知見です。経済学は、初歩的な自然科学の

知識のように日常生活に必要でもあります。筑波大学関係者で4番目のノーベル賞受賞者たらんとする学生が入学されることを期待します。



小畑 二郎 おばた じろう
 「金融論」「古典派経済学と近代経済学」▶【金融論/金融史/貨幣・資産理論を中心とする学説史】▶現代の日本の経済社会は、歴史的に見て大きな曲り角に

来ていると思います。金融機関や企業の整理・統合や、雇用不安、年金問題など、その具体例には事欠きません。私は、講義や演習などをつうじてこのような問題を一緒に考えるための知識や理論について語ってほしいと思っています。皆さんが、学生時代に生涯のテーマを見つけることを希望しています。



篠塚 友一 しの つかともいち
 「中級ミクロ経済学」「産業組織論」▶【ミクロ経済学/社会的選択理論/厚生経済学】▶某大学の経済学部を受験すべきか商学部を受験すべきか迷っていたとき、当時その大学の商学部3年生であった方から、経済学部受験を勧められました。その

方がおっしゃっておられたように、経済学は面白く、かつ有用な学問です。このことを深く理解するためには、最初の2年間は数学(線型代数、微積分)や論理学をじっくり学ぶとよいでしょう。



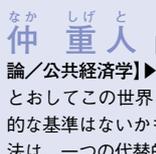
高見澤 秀幸 たかみ ざわひでゆき
 「ファイナンス入門」「経済統計学」▶【ファイナンス】▶皆さんの普段の生活で起こること(あるいは起こりうること)が、社会学類で学ぶ対象になります。その意味で、世の中の出来事に対して関心を持ち、なぜなんだろうという疑問を持つことが大事です。その答えが(全部ではないかもしれませんが)、この大学で見つかると思います。

その答えが(全部ではないかもしれませんが)、この大学で見つかると思います。



田中 洋子 たなか ようこ
 「世界経済史入門」「ヨーロッパ社会経済史」「比較経済論」▶【グローバル化の社会経済史/ドイツ企業・労働史】▶経済のグローバル化は、私たちの日常生活の中から地球の隅々まで、社会や文化、一人一人の考え方や生き方、環境の変容をともなう大きな変化をもたらしています。刻々と変わりつつある世界の現実をとらえ、これから進む道を考えるためにも、多くの本を読んで思考を深め、たくさんの現場を自分の目で歩き、多くの人たちと議論を重ねてほしいと思います。歴史分析と国際比較の視点から、私もバックアップしていきます。

刻々と変わりつつある世界の現実をとらえ、これから進む道を考えるためにも、多くの本を読んで思考を深め、たくさんの現場を自分の目で歩き、多くの人たちと議論を重ねてほしいと思います。歴史分析と国際比較の視点から、私もバックアップしていきます。



仲 重人 なか しげと
 「初級ミクロ経済学」「公共経済学」▶【公共選択論/公共経済学】▶人は、自分が社会関係を通じて形成した眼鏡をとおしてこの世界を見ています。眼鏡の良し悪しについては絶対的な基準はないかもしれませんが、少なくとも、経済学的手法は、一つの代替的な、かつ、とても興味深い眼鏡を提供してくれると思います。私の場合はそうでした。これは、自分と社会を認識している自分の視座を変革し、異なるレベルの満足と理解を得るために役に立つかもしれません。

これは、自分と社会を認識している自分の視座を変革し、異なるレベルの満足と理解を得るために役に立つかもしれません。



平沢 照雄 ひら さわてるお
 「日本経済史」「現代日本経済史」「日本経済論」▶【現代日本の経済規制と規制緩和/地域経済の歴史と現状】▶今日の日本経済は大きな転換期にあります。日本経済は、どのような歴史を経て現在に至り、今後どのような方向に向かおうとしているのかといったことに興味をもち、日本経済の歴史と現状について学びたいという学生に出会えることを楽しみにしています。

日本経済は、どのような歴史を経て現在に至り、今後どのような方向に向かおうとしているのかといったことに興味をもち、日本経済の歴史と現状について学びたいという学生に出会えることを楽しみにしています。



平山 朝治 ひら やまあさし
 「経済思想史」「経済学演習Ⅵ」▶【経済思想/経済システム・文化・思想の進化と持続/日本社会】▶大学生になると、あらゆる面で、それまでと比べて自由に自分でものごとを決められるようになりますし、大学を卒業すると、これほどの自由や時間の余裕は二度と得られない人が多いでしょう。入学目的の受験勉強が終わった後、自由を持ってあましたり、自由に背を向けること(カルトにはまるなど)にならないように、何ができるか、何をしたいかを予め考えて、夢を持って志望していただきたいと思います。

入学目的の受験勉強が終わった後、自由を持ってあましたり、自由に背を向けること(カルトにはまるなど)にならないように、何ができるか、何をしたいかを予め考えて、夢を持って志望していただきたいと思います。



福住 多一 ふく ずみまさかず
 「経済数学」「経済学入門演習Ⅰ」▶【進化ゲーム理論/行動ゲーム理論】▶経済学の考え方を身に着けると、ややこしそうな社会の仕組みがスッキリとわかりやす。学問ですから習得には骨が折れますが、その苦勞よりも得るものは大きいでしょう。

学問ですから習得には骨が折れますが、その苦勞よりも得るものは大きいでしょう。



穂刈 享 ほ かり とおる
 「数理経済学」「市場経済論」▶【ゲーム理論(協力ゲーム)/経済のモデル分析】▶社会学類には、数学は苦手だけれど非常に賢い学生さんが多いのですが、そういう学生さんを相手に講義をしてきて、「微分の計算がスラスラできるかどうかということと経済学の本質を理解しているかということは全く別問題だ」と思うようになってきました。微分なんか使わなくても経済学の本質は伝えることができるはずだと考えて、「数理経済学」の授業でも微分を使わなくなってしまったのですが、うまくいっているんだかどうか。

微分なんか使わなくても経済学の本質は伝えることができるはずだと考えて、「数理経済学」の授業でも微分を使わなくなってしまったのですが、うまくいっているんだかどうか。



箕輪 真理 みの わまり
 「開発経済学」「経済学演習Ⅹ」▶【開発経済学/ラテンアメリカの経済/開発政策/社会開発】▶世界は大きくて私たちの知らないことは無限です。そんな世界に生まれてきた私たちは本当に幸せ。限られた時間をどうすごし、何を考えて、いかに

生きるのか、自分の選択次第です。自分の選択に責任を持って、たくましく生きてゆけるための基礎固めをする時間、それが大学での4年間です。社会学類に入学して、勉強は本当に楽しいということを実感してもらえることを願っています。



山根 誠一郎 やまね せい いちろう
 「経済原論入門」「財政学」▶【経済学/財政学/17-18世紀イギリスの財政史・財政思想史】▶職業専門学校化した大学にあって、単なる専門の知識を詰め込むだけでなく、豊かな教養を身に付ける時と場としての大学生活はいかでしょうか。(平成21年3月退職予定)

単なる専門の知識を詰め込むだけでなく、豊かな教養を身に付ける時と場としての大学生活はいかでしょうか。(平成21年3月退職予定)

在 学 生 の 声



社会学専攻
鈴木 千香子

「大好き!」「許せない!」「どうして?」誰にでもそう感じる事柄が一つはあるでしょう。例えばある人にとってそれはスポーツだったり、差別問題だったり、秋葉原の魅力だったりするかもしれません。そしてそれら全てが、社会学にとっては研究対象です。家族や学校やインターネットなど、私たちが誰か(何か)と関わる時、そこには一つの社会があります。そう考えると、この学問のフィールドの広さが分かってもらえるのではないのでしょうか?

私自身、中学生の頃に学校生活で感じた悩みや疑問を解決したいと思ったのが、社会学を志したきっかけでした。しかし今ではそれ以外にも興味のある分野がどんどん増え、以前よりも自分の幅が広がったように感じています。とは言え、まだまだ社会学の世界は広くて深い!文献や資料を読んで知識を得ることはもちろん大切ですが、「学んでいて楽しい!」と思えるのは、やはりゼミと呼ばれる演習だと思います。これは10人前後という少人数の学生と先生とで本を読んだり、発表を行ったりすることです。一つのテーマについて皆で議論したり調べたりすること

は、学ぶことの純粋な面白さを私たちに教えてくれます。先生方も皆、様々な専門分野で活躍されている方ばかりです。このような多くの素晴らしい先生方の下、少人数、良い雰囲気という好環境で学べるのは、筑波大学社会学類の最も大きな利点であると思います。

もしかすると皆さんから見て、社会学は分かりやすい資格や技術とは結びつきにくいかもしれません。しかし社会で生きて行く中で必要なものは資格や技術だけでしょうか?世の中で起こる様々な出来事に対して反応し、それを色々な角度から見ること。与えられた答えではなく、自分で考え、見極めようとする。私たちは社会学を学ぶことで、その力を養おうとしています。

必要なのは「大好き!」「許せない!」「どうして?」と感じる気持ち。それを感じた時、あなたはもう社会学のスタート地点に立っているのです。



法学専攻
堀口 法子

現代社会における私たちの生活の中で、法律に規定されていないことなど皆無といっても過言ではありません。そのような中で、私たちが法律をほとんど意識せずに生活できるのはなぜでしょうか。そのことを学びたいと思い、私は法学を専攻しました。

皆さんもご存知の通り、平成21年5月から裁判員制度がスタートします。裁判員制度の導入により、法学を専門として学んでいない人も法的思考が要求されるようになります。裁判員に選ばれた場合、公判への立会い、被告人や証人等への質問、裁判官との評議、判決の宣告等をしなければなりません。法学を学んでいる人にとっても、これらの事は非常に難しいことです。しかし、そもそも法的思考とは、問題を多角的に検証し、それによって得た結論を論理的に説明することです。このような思考方法は実際の社会でも必要とされていることなのです。

社会学類法学専攻の特徴として、模擬法廷を利用して実際の裁判形式に従って法律を学ぶこと、多くの演習が少人数で行われることが挙げられます。特に演習は、受講生間や先生との距離が近く、活発な意見を交わし、様々な視点から物事を考える事が出来ます。単純に

法律の内容を理解することは、努力すれば誰にでも出来ることです。しかし、法的解決が必要とされる問題の実例を挙げて、法的に考えることは、法律の暗記だけでは難しいことです。演習はこのような思考を身に付けるために非常に有効といえます。

私は法学専攻を選択しましたが、決して法学だけを学べば良いとは思いません。少年法などの現代社会の問題を取り扱う社会学、行政法や法の立法過程、あるいはその運用にも深く関わる政治学、独占禁止法などの経済活動を規律する際に関連してくる経済学など、適切に法律を解釈・運用するためには、私はこれらの学問を広く学ぶ必要があると考えています。私がこのように考えるようになったのは、高校一年生のときに、筑波大学に合格した先輩から聞かれた言葉がきっかけでした。「あなたの興味のあることは、一つの学問分野だけで学ぶことが出来ますか?」この言葉は今でも私の中で生きています。筑波大学では、他学類の講義を受講することが容易に出来ます。これは、他の大学にはない魅力的な特徴です。今、この文章を読んでいるあなたの興味は、一つの学問だけで満たされますか。



政治学専攻
土屋 早巳

大学に入って、私は色々な人に出会いました。暮らしてきた地域・環境、趣味、年齢…、すべてが異なる人たちと共に会話をし、議論をし、そしてその価値観の共有、衝突を繰り返してきました。これまでの生活の中で、これほど多くの考えに出会ったことは無かったし、また、それは私自身が定義していた‘社会’というものが如何に小さなものであったのかということを感じさせられることでもありました。そして、これからも就職などを経ることでその‘社会’はますます大きくなっていくのでしょうか。

「政治」というものを考えるとき、そこには社会の存在が欠かせません。そして多種多様な意見の存在もまた然りです。日本だけでも1億人以上の人々が暮らすこの社会が、今こうして存在し、1つの国として誰もがそれを認めている。不思議ではないですか？友達との何気ない会話でさえ意見が衝突することがあるのに、なぜこの1億人以上の人々が一国の国民として、法に従い、選挙に赴き、納税の義務を果たすのでしょうか？当たり前のように、考えてみると意外と難しい問題ですよ。

あなたにとって政治の世界は縁遠い世界かもしれません。しかし、国会では法案の審議、都道府県議会では予算の見直し、更に市町村議会では条例の制定などが日々行われています。見えないところで政治は常に動き続け、私たちの生活に影響しているのです。そして、まさにその動き続ける政治の内部では、様々な人々の思いや願いを孕んだ意見が衝突や融和を繰り返しながら一つの方向性を探っています。そう考えてみると、政治というのは、自分たちの日常生活で当たり前に行き始めていることの延長線上にある身近なもののように感じられるでしょう。

皆さんが意見を持つとき、そこには政治の世界があります。皆さんのこれまでの経験がいっぱい詰まったそれを、誰かに伝えてみてください。相手はどんな反応を見せますか？そして、それを聞いた私はどう思うのでしょうか？共に議論できること、楽しみにしています。

政



経済学専攻
間中 拓登

皆さんは、何を求めて大学に入りますか？教養を深める環境・楽しい時間・自由等々それぞれ思うところがあるでしょう。大学での4年間は、その後の人生においても大きなインパクトを与えるものだと思います。というのも、そこで得た考え方・人間関係は、その人の将来に大きな影響があるからです。同じ4年間ならより充実した日々を過ごしたいですよね？

ところで、社会学類経済学専攻ではいったいどんなものが得られるのでしょうか？！経済学専攻の特徴としては、少人数教育・カリキュラムの柔軟性等いくつか挙げられますが、これらの素晴らしい制度の恩恵はただ筑波大学に入学して経済学専攻に進めば得られるものではありません。大学での生活は過不足なく「自由」の2文字で表わせられると思います。そこで考えなければならないのは、自由な環境では自立心と自覚が求められるということです。折角の自由な時間も自分のやるべきこと・やりたいことを探し出し、それに従って自分から動き出さなければただの無意味な時間になってしまいます。私は、大学での自由な

時間を使って、友人や先生との経済学勉強会・他専攻、他学類の講義への参加・学外での政策立案コンテストへの参加等様々なことに挑戦してきました。今ではそのどれも自分の血になり肉になっています。たとえば、これらを通して政策が形成されていく過程や投票行動の経済学的視点からの分析等について学び、世の中の事象についてより広い視点から見られるようになりました。それも政治・経済という興味の対象を見つけ出し、その興味にしたがって行動してきた結果だと思います。そして、それを可能にしていたのが社会学類経済学専攻の提供してくれる環境だと思います。教員との緊密さ・仲間同士での情報交換・柔軟なカリキュラムは自分が大学でやりたいことをやるためにとても有意義なものでした。

みなさんぜひ経済学専攻の環境を生かして有意義な大学生活を送ってください。

経



授業の合間に一食でつろぐ4年生。夏の旅行の計画でもたてているのでしょうか



第三エリアの食堂、通称「三食」。専門店が並び、人気の店はいつも賑わっています。



昨年第一エリアに引っ越してきた「STUDENT PLAZA」。ここでは、「就職課」などがあり、就職活動に関する様々な資料が集まっています。



ゼミ発表の打ち合わせ。何週間も前からこのように発表準備をしているんですね。



第一エリアの食堂、通称「一食」。名物のカレーを大盛りにしてくれることも・・・？



人気授業の「政治外交史」の授業風景です。映像も使いながらの授業を行っています。



年2回、春と秋に行われるスポーツデー。サッカー、バスケット、バレーなど様々な種目が行われ、多くの学生・教職員が参加します。



卒業式後に行われる、学位記授与の様子。これまでの学生生活に思いを馳せたり、新しい生活への期待を抱いたり・・・。



ゼミの風景。少人数で行うので、先生と学生とが積極的に議論を行える場です。



社会学類誌「そしあ〜る」の編集会議の風景。発行部数は500を超える、人気の学類誌です。



第二、第三エリアの間にある噴水。天気の良い日には、ここでのんびりしている人を多く見かけます。



松美池。この池の周りには多くの人が集まってきます。昼食をとる人、音楽の演奏をする人など、学生にとって憩いの場となっています。



祝！卒業！！無事に卒業できて本当に嬉しそうですね。



新入生歓迎行事における野外炊飯の様子。準備から片付けまで一緒にやることで、一年生同士の距離が縮まるかも・・・？



毎年10月に行われる「雙峰祭」。社会学類企画委員会が主催する「松美記念」では、馬に扮した学生達が松美池を疾走します。出馬した皆で記念撮影！



宿舎に入居している学生を中心に、毎年5月末に行われる宿舍祭。写真は学類ごとに作成された神輿が披露され、盛り上がっている様子。



今年、図書館内に喫茶店も入りました。図書館前の風景。試験期間前になると多くの人が課題に追われて図書館を利用します。



これは10月の雙峰祭で社会学類の学生が開いた喫茶店です。売り上げは結構よかったみたいです。



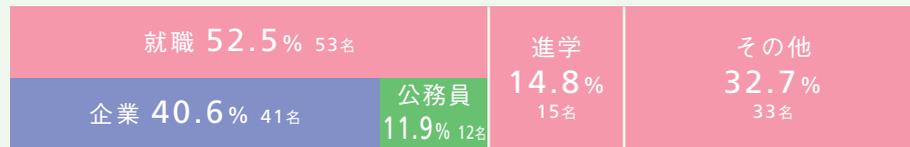
今回このページの写真とコメントを一人でまとめてくれた社会学類3年生の北嶋君です。協力ありがとうございます！

社会学類の卒業生の進路は、民間企業、マスコミ関係、国家公務員・地方公務員、教職などへの就職や、大学院（ロースクールを含む）への進学など、それぞれの志望にしたがって多方面にわたっています。卒業生は、すでに社会の各分野で幅広く活躍しており、高い評価を受けています。

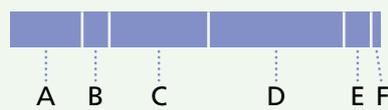
平成19年度の卒業生の進路状況を見ると、就職者が67.9%、進学者が18.3%になっています。就職先は企業が81%、公務員が17.6%となっています。さらに企業就職者の内訳をみると、サービス業（31.6%）、製造業（25%）、金融・保険業（18.3%）の順に多くなっています。

◎ 平成17年度

[卒業生101名]



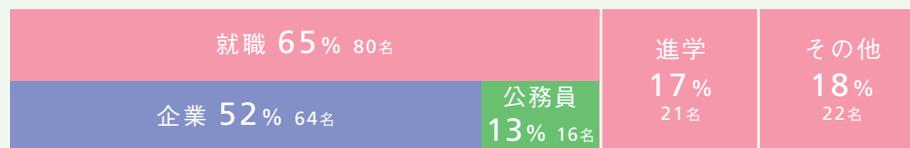
▶ 企業就職者の内訳



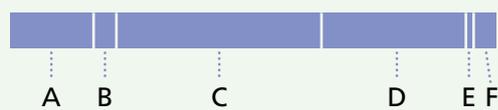
- A 金融・保険業 19.5% 8名
- B 運輸・通信業 7.3% 3名
- C サービス業 26.8% 11名
- D 製造業 36.6% 15名
- E 卸売・小売業 7.3% 3名
- F 建設業 2.5% 1名

◎ 平成18年度

[卒業生123名]



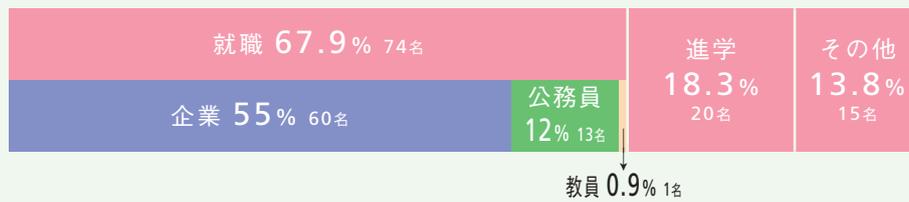
▶ 企業就職者の内訳



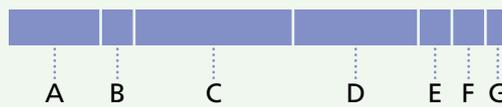
- A 金融・保険業 17.2% 11名
- B 運輸・通信業 4.7% 3名
- C サービス業 42.2% 27名
- D 製造業 29.7% 19名
- E 卸売・小売業 1.5% 1名
- F 建設業 4.7% 3名

◎ 平成19年度

[卒業生109名]



▶ 企業就職者の内訳



A	金融・保険業	18.3%	11名
B	運輸・通信業	6.7%	4名
C	サービス業	31.6%	19名
D	製造業	25.0%	15名
E	卸売・小売業	6.7%	4名
F	不動産業	6.7%	4名
G	その他	5.0%	3名

金融・保険業

三菱東京UFJ銀行
三井住友銀行
みずほ銀行
常陽銀行
関東つくば銀行
中国銀行
大和証券
野村証券
日本生命保険
三井住友海上火災保険
オリックス生命保険

運輸・通信業

日本通運
日本航空インターナショナル
中日本高速道路
JTB
H.I.S.
NTT東日本
朝日新聞社
読売新聞社
毎日新聞社
日本経済新聞社
サンケイリビング新聞社
静岡新聞社

サービス業

TBS
読売テレビ
長野放送
宮崎放送
中部日本放送
ソフトバンクBB
日本ユニシス
ベネッセコーポレーション
リクルート
三井不動産
東映
会計事務所
法律事務所
特許事務所

製造業

凸版印刷
新日本製鐵
川崎重工業
住友重機械工業
住友化学
住友林業
日立製作所
日立化成
武田薬品
クラレ
ジョンソン・アンド・ジョンソン
ダイハツ工業
出光興産
横浜ゴム
国分
セガ
パイオニア
セイコーエプソン

卸売・小売・飲食業

セブンイレブンジャパン
ローソン

建設業

ミサワホーム
清水建設

国家公務員

環境省
財務省
国土交通省
警察署

地方公務員

都道府県庁
市区役所
都市整備局

独立行政法人など

全国農業協同組合連合会
宇宙航空研究開発機構
日本音楽著作権協会
名古屋大学
茨城大学

最近の主な就職先（平成17～19年度）

- * 入学定員 1学年80名(国費留学生は別枠)/編入10名
1. 推薦入学試験 募集人員 16名
試験時期 11月下旬
試験科目 小論文、面接
 2. 学力試験 募集人員 前期54名 後期10名
試験時期 大学入試センター試験… 1月中旬
個別学力検査… [前期] 2月下旬 [後期] 3月中旬
▼個別学力検査の試験科目
[前期] ・外国語(英[英II・リーディング・ライティング]、独、仏、中の中から1科目を事前選択)
・数学(数II・数B)/国語(現代文・古典)/地理歴史(世界史B、日本史Bから1科目を選択)から1教科事前選択
[後期] 論述試験(外国語を含む)
※変更予告 平成23年度入試より後期日程は実施しません。
 3. 私費外国人留学生試験 募集人員 若干名
試験時期 2月下旬
試験科目 小論文、面接
 4. 2学期推薦入学 募集人員 若干名
試験時期 7月
*帰国生徒のみ 試験科目 小論文、面接
 5. 編入学試験 募集人員 10名
試験科目 2月下旬
試験科目 各主専攻分野の専門科目、外国語、面接
- ◎問い合わせ先 筑波大学学務部入試課入試第一係 Tel. 029-853-6007
なお、募集要項の発表は、毎年9月下旬です。



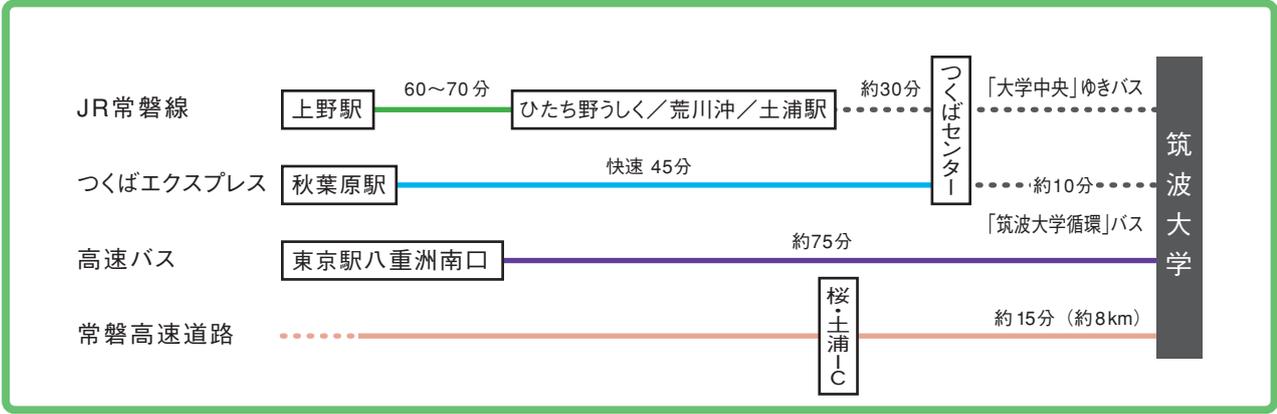
筑波大学社会学類案内誌

社会学類への招待

2008年7月25日 初版一刷発行 禁無断転載

- 編集委員 本澤巳代子 委員長:村上正子 崔 宰栄 野上 元 仲 重人
企画・編集 社会学類案内誌作成委員会
編集協力 北嶋 駿 (3年)
デザイン 繁田 彩 松沢康行
写真 小沼 涉
発行 筑波大学社会・国際学群社会学類
〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1
<http://shakai.tsukuba.ac.jp/>
印刷・製本 株式会社いなもと印刷

交通案内



筑波研究学園都市





社会学類への招待

A Guide to College of Social Sciences, University of Tsukuba